

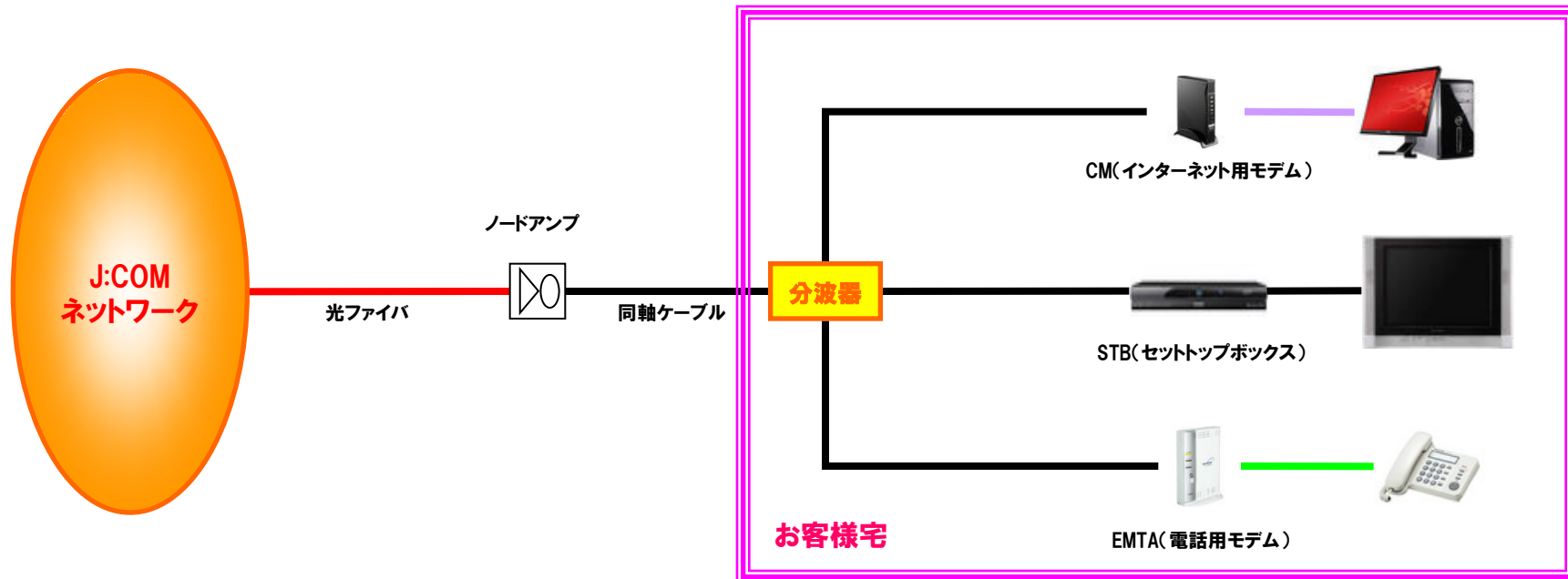
J:COM サービスのIPv6アドレス対応進捗状況について

2013年4月24日

株式会社ジュピターテレコム

当社主力の160Mサービスについて

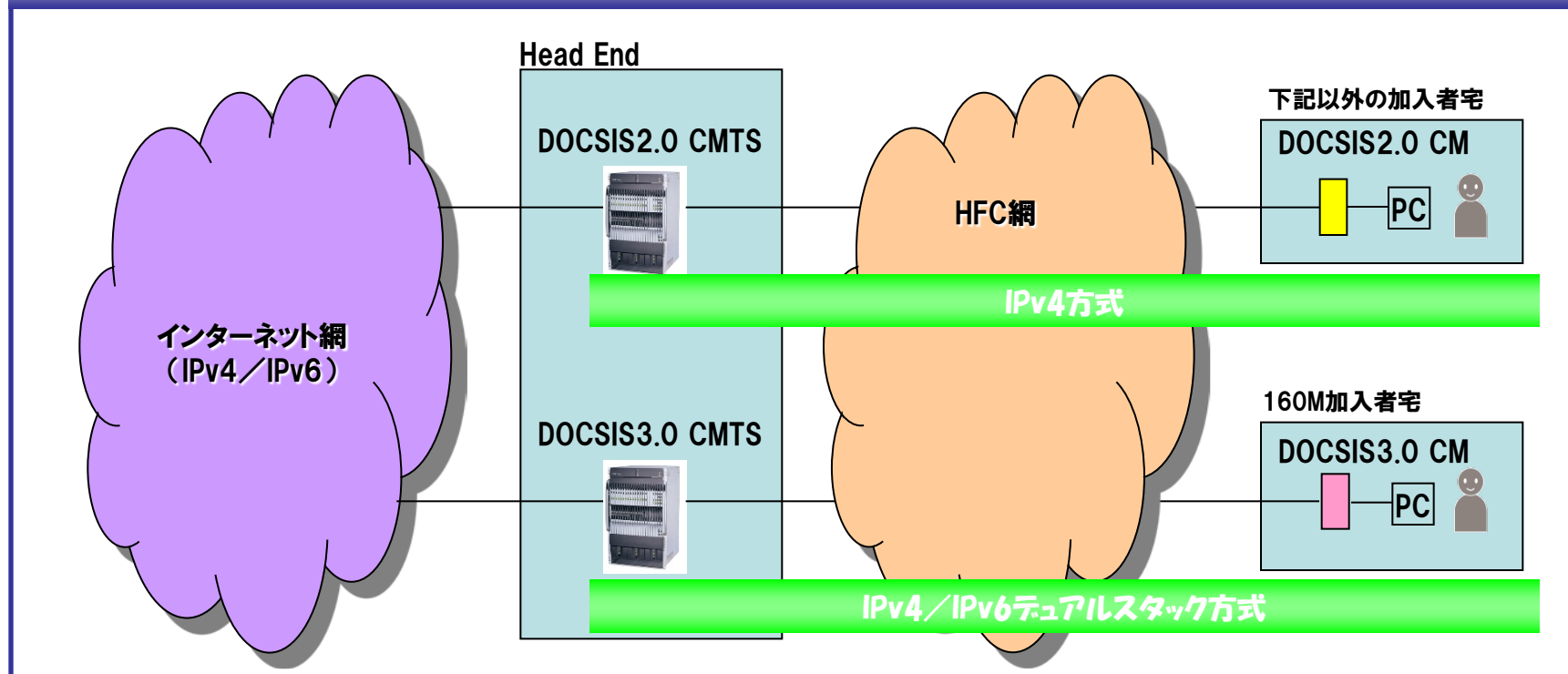
- IPv6アドレス提供サービスを来月(5月)より提供開始
- 地域別に順次開始し、当面はお客様よりの申込ベース
- 将来的に、IPv6利活用が進めば、デフォルト提供について
検討



- J:COMでは、インターネット・OAB-J IP電話のみならず、CM内蔵STBを利用したVODなどの通信系TVサービスを提供
- STBについては、IPv4のグローバルアドレスをプライベートアドレスに順次変更中
- EMTAについては、IPv4プライベートアドレスを付与
- CMについては、次スライド以降で説明

- J:COMが提供するインターネットサービスは、160M・40M・12M・1Mのラインナップがある
- 160Mは、センターモデム(CMTS)および宅内モデム(CM)ともにIPv6対応の設備となる
- 当社40M以下のインターネットサービスは、センターモデム(CMTS)および宅内モデム(CM)ともにIPv4対応の設備となる

現状



提供条件

- J:COM NET 160M(DOCSIS3.0)加入者のうち、利用希望者からの申込みに対し提供（ケーブルインターネットの仕様上、IPv6アドレスが利用可能なのはDOCSIS3.0に限られる為）
→新規加入者の約半数は160M(IPv6対応設備)

サービス仕様

- 対象コース : J:COM NET 160Mコース（DOCSIS3.0）
- 提供方式 : デュアルスタック方式
- 料金 : 追加料金は不要
- 申込方法 : 加入者サポートページからの申込制

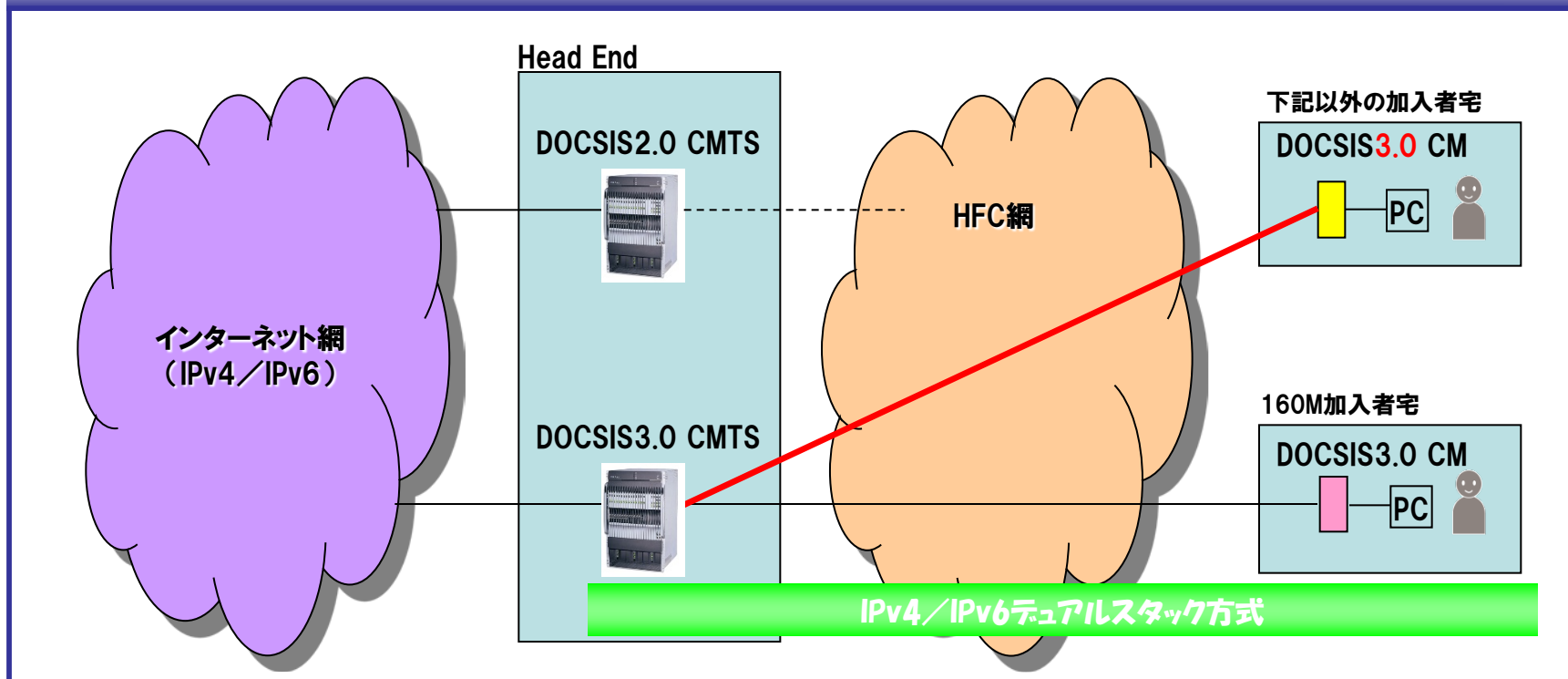
スケジュール

- 2013年5月 : 関東エリア 6局
- 2013年10月 : 上記除く、東日本エリア全域（22局）
- 2014年Q1（仮） : 西日本エリア全域（20局）

今後の設備対応について（新規加入者対応）

- 将来的に、40M以下を含む全新規加入者につき、IPv6対応の設備を利用する方向で検討中
- 将来的に、デフォルト提供についても検討中
- IPv6対応設備とIPv4対応設備に大きな価格差

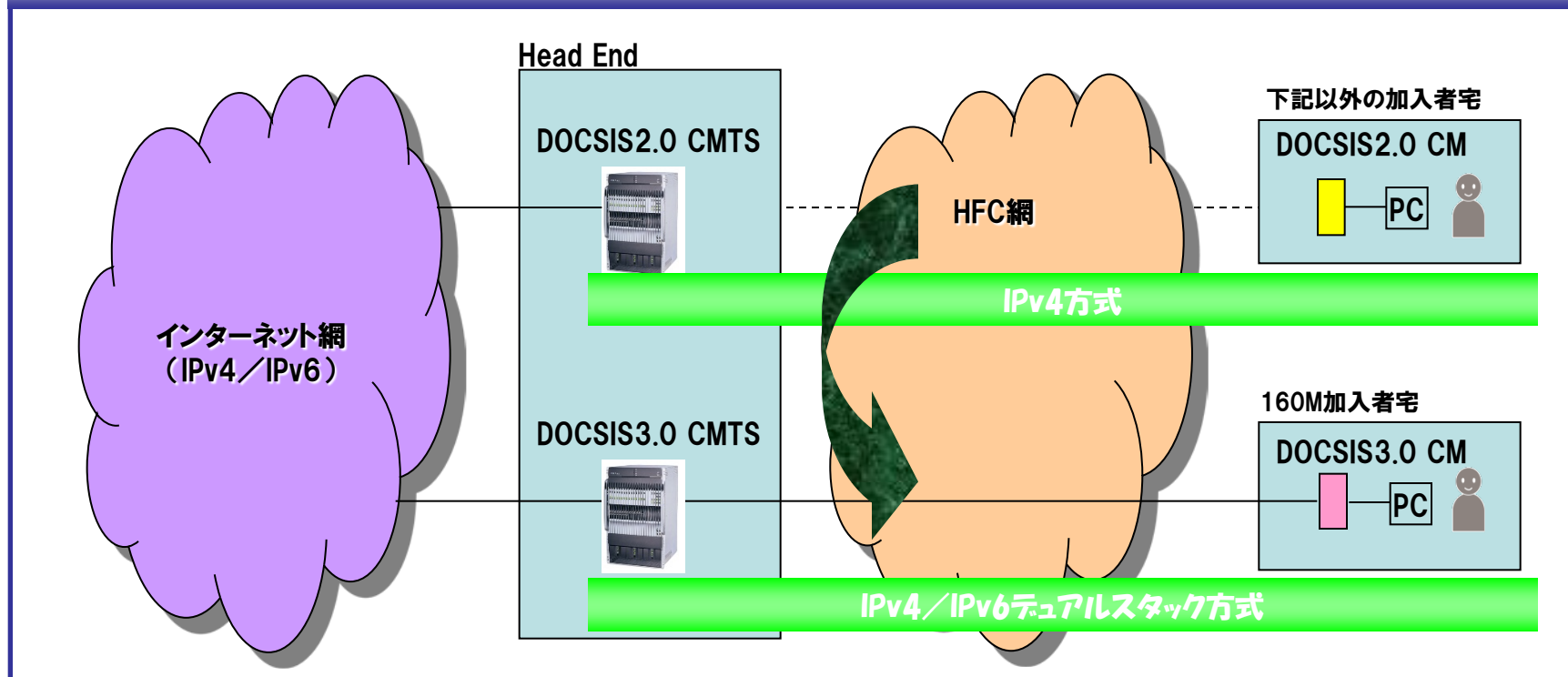
新規加入者対応



今後の設備対応について (既加入者対応)

- 160Mの既存加入者においても、将来的に、デフォルト提供を検討中
- 40M以下 (DOCSIS2.0) 加入者からIPv6アドレスの利用希望があった場合は、160Mへ切替することにより対応
- 将来的に、40M以下 (DOCSIS2.0) 加入者のIPv6対応設備への移行が必要 (STB含む)
- IPv6対応設備とIPv4対応設備に大きな価格差

既存加入者対応 (Migration)



◆ 今後の課題

- IPv6利活用サービスのお客様への提案推進
- IPv6対応設備を積極的に導入してきたが、IPv4対応設備に比べ価格差が大きい
- IPv4のみ (IPv6対応不可) 加入者のIPv6対応化に関わる移行プランおよび多額の費用負担の整理

◆ 要望

- IPv6利活用の活発化が進展していない状況
⇒政府や地方自治体等の公の機関が率先してIPv6を自ら使用するとともに、IPv6対応を加速化させるためのコンテンツやアプリケーションの開発・普及の促進と一層の広報強化をお願いしたい。